FERRO

FERRO MARI E MONTI 2022

第1回自転車コンテスト

応募一覧

カテゴリー1

VINTAGE A (18世紀-1959)



VINTAGE A (18世紀-1959)

カテゴリー2

VINTAGE B

(1960-1987)

・大会受付番号:535

・コルナゴ製 EDDY MERCKX

・1971年

この自転車は、MOLTENIチームの監督を長らく 勤めた、イタリア自転車界の重鎮、故Giorgio Albani氏の遺品。

メルクスが、コルナゴ製の自転車を使用していた時に、当時、当社に在籍していた名工、Rossinが、チームの為に作成したもので、これは監督用に作成された。メルクス本人と同じ仕様で、サイズ違いの姉妹車だ。

ほとんど使用されていなかったことから、グッドコンディションの状態だ。監督の死後、遺族が処分されたのが、縁あって日本にやって来た。









お世話になります。本日は有難うございました。

以下、この車についてまとめてみました。

【経緯】

売りに出されていたのを見つけた際、1973年コルナゴカタログにあるメルクス仕様市販モデルとは 仕様が全く異なり、1971~72年頃モルテニチームで使用されたのと全く同じ仕様であることから市 版されていない特別車であることを確信。この車の履歴について売り主に尋ねたところ、1961から76年までモルテニでスポーツディレクター(チーフコーチ)をしていたジョルジオ アルバーニ (1949-59年にレニアーノ、モルテニで現役選手を経た後、モルテニチームにコーチとして就任し 英雄メルクスを育てた伝説的なモルテニのマネージャー。2015年7月没)のもので、彼の遺族から 譲られたもの、との回答を得、購入した。

入手後、写真を添付してこの車の鑑定(モルテニチームの車か。持ち主はモンツァ在住だったアルバーニか)をコルナゴ社に正式依頼したところ、前者については下記コルナゴからの回答(2016/2/19付け手紙訳)のように確認が取れた。

ンドロ コルナゴ」

【自転車】

① フレームのシリアルナンバーが01。 コルナゴジャパンのホームページにあるエルネストコルナゴの略歴 (http://www.colnago.co.ip/2008model/history/history.html)) には、「1959 幼なじみのジョルジオ・アルバーニとの関係から、1973年まで所属することになるモルテーニのメカニックとして迎えられる。」とあるので、コルナゴが一番最初にアルバーニに 贈ったものでは?

② フレームサイズが芯トップ540mm。これはアルバーニ本人の身長 173cm、70kg (http://www.ciclopassione.com/t1748-giorgio-albani-ottimo-corridore-e-storico-diesse) に合致。

③ 選手が使用したものならこれほどいい状態で残っていない。

ということで、コルナゴ社からの確認は取れませんでしたが、アルバー二本人の持ち物であった可能性は極めて高いと思います。

以上、お役に立てば幸甚です。

なお言い忘れましたが、リアのクリックリリースについている環付ナットは次世代のものになっていますが、入手した時点からついていたものですのでそのままお持ちしました。





選手として、チーム監督として、オーガナイザーとしてジロに出かけること52回。 ジョルジョ・アルバーニは100周年、全紀図を数えるジロの半数以上を図ったことになる。 本誌はジロ開催中にアルバーニに インタビュー。生き匿人が思い出す半世紀のジロ。

つも、こいつも……。この写真の中で今で 関連いなく存在しないだろうね」 きているのは、フィオレンフォ・マーニと [[1139169

54年ジロ・デ・イタリア最終日のワンシ をとらえた写真を見ながら、さらりと言っ けたのはジョルジョ・アルバーニさん。襲 歳。なんともかくしゃくたる元プロ選手 ミラノ郊外のモンファにて、静かに退職後 々を調唆している。

はアルバーニさんの「老後」はまだ始まった り。2008年ミラノーサンレモのその日ま -78歳まで、RCSのレースディレクタ して、プロトン真後ろの車で指揮をとって

ったく年を取ったものさ。ジロは全部で 6行ってしまった。50年から59年のプロ に9回出場。60年から76年まではモルテ のチーム監督として17回。そして702年か 07年までは開催委員の一員として26回。

つまり100年の歴史を誇るジロの半分以上、 正確にいえば92大会の6割近くを、アルバー ニタムは根據で過ごしてきた。しから成職すべ きは数字だけではない。

ファウスト・コッピやジーノ・バルタリと同 時期に走り、同じ風を感じてきた。史上最強選 手エディ・メルクスにはチームカーから指示を 出してきたし、マルコ・パンターニがはでアタ ックをかければレースディレクター車で一部給 終を見届けた。アルバーニさんは、半世紀の間、 つねにプロトンの真ん中にいた。

マリア・ローザは永遠ご記憶のなかに

「ボクのプロ時代は、レースとはもっとのんき なもんだった。だいたいジロが全部で20ステ ージ(らいあると).から、15ステージ(らいは) 前日のゴール地と翌日のスタート地が同じだっ たかな。朝になると、関係委員会が仕立てたパ

つも死んだ、こいつもこの他にいない、 ボク以上にジロを回ったことがある人間なんて、 スが選手たちを迎えに来るんだ。そもそもチー

ムバスなんてない時代だったからね。 戦術なんていうのも大してなかった。 ボクは スプリンターだったけど、"トレイン"なんて 高熱なし。ゴール前でパラパラにもがいていた だけ。今で営えば、全員がマキュウェンみたい に走っていたんだ。そもそも当時は、みんなに 勝つ自由があった。強力なリーダーとアシスト の関係が成り立っていたのは、コッピのいたビ アンキなど2、3チームくらいのものだよ」 個人の力でスプリントを制して、アルバーニ さんはジロ区間7番。52年には第1ステージを 制して、マリア・ローザも着用している。

「何度も舞ってきたけれど、やっぱり、マリア・ ローザを獲得したときがいちばんうれしかった。 雲の上に乗ったような、天国に行ったような気 分だった! 当時はまだ、スプマンテシャワー はなかったけど、副質にコーヒーを25kgもも らった。それにホテルにたくさん人が詰め掛け て、記念写真を扱ったりしたよ」

・大会受付番号:114

· STELLA

・1972年頃

フレームのみフランスの知人よ2000年頃購入。 Louison Bobet が1950年代にツール三連勝 を果たした際に、彼が乗っていたSTELLAブ ランドの1972年頃に発売されたハイエンドモ デルだ。

オフの日に、NantesからVannesをかすめながらCarnacの奇岩を観にサッとブルーメルのガードを付けてファストランを愉しむロンシャンモデルを想定。

ヴィンテージバイクではあるが、ちゃんと乗鞍クラスの山岳ルートも登れるよう、ストロングライト63DにPCD74mmのインナーギア30Tが付くよう、デザインを損なわないように、TIG溶接でフランジを増設改造した「走るためのヴィンテージバイク」がアピールポイント。

シートチューブを飾るパリ-ルーベ、サンレモ、 パリーツール、ロンバルディア、フランドル、 のチャンピオンタイトルを誇らしげにデザイ ンしたSTELLAのブランドラベル、どうです か?最高にかっこいいでしょう!?











- ・大会受付番号:561
- Peugeot Prestige
- ・1973~1975年頃

ヤマハ発動機がPeugeot ロードバイクの発売にあたりサンプルとしてPeugeotチームのプロ用ロードレーサーを作る特別部門にオーダーしたもので、Peugeot PX-10とは別物。

パーツの特徴:

Simplex, スーパーLJ前後ディレーラー、ストロングライト93クランク、Mafac Competition等のフレンチ部品が多いが、栄ロイヤルのステムとシートピラー、Cinelli Universal、チャンピオンドュモンドハンドル等が使われている。(ヤマハ発動機ファクトリーチーム用にオーダー)

Bicycle Club 1986年2月号のPeugeot特集で紹介された自転車そのもの。使用部品はほとんど変えてないが、L'英雄に参加するため、ストロングライトの歯数を小さいものに変え、フリーをcycloから歯数の多いシマノ製に変えた。ホイールはレースに使われていたものでスポークの接点がニクロム線で結線されている。フレームは当時の塗装のまま。目立つ傷はない。メッキ部分もきれい。













・大会受付番号:566

Moser

・1987年頃

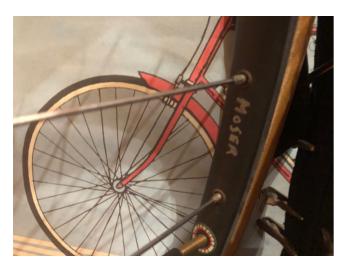
モゼール選手が1987年の東松山の引退レースで実際に使用した車両になります。

レース使用時のそのままの状態でフレームはオリア管の潰し加工のラグレスでインテグラルシートポスト コンポーネントはカンパニョーロ初期のCレコにコバルトブレーキです。 前輪リムは当時スポンサーだったアンブロシオに

前輪リムは当時スポンサーだったアンブロシオに名前が記されています。後輪リムは恐らくマビックのパリルーベSSCのステッカーを剥がしたものと思われます。



CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR O







カテゴリー3

モダン部

- ・大会受付番号:241
- · Passoni製Titanio Classica
- ・2022年頃

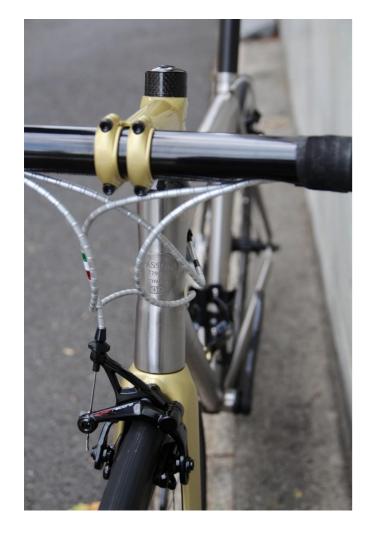
長年のクロモリファンですが、念願のPassoni Titanioをコルサコルサでオーダーして制作しても らいました。

こだわりはクラシカルな細いチューブとパッソーニらしいケーブル内蔵フレームです。また、仕上げは最上級のハンドメイド磨き仕上げ。美しいチタンシルバーとスーパーレコード、CADEXホイールのブラックのコントラストが大変気に入れています。軽量化とパッソーニらしいクラシカルな雰囲気を大切にしたかったので、あえてメカニカルシフターのリムブレーキ仕様にしました。まず、リクエストを丁寧に聞いてくれ、自分のあれる素晴らしい1台に仕上がったと思っています。

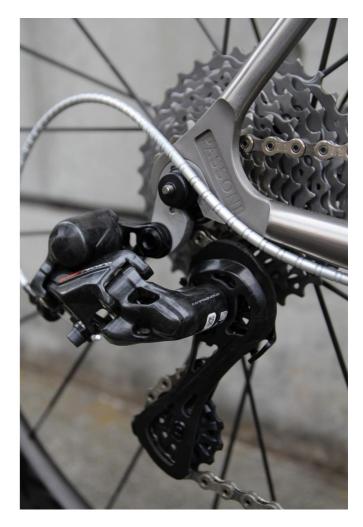
パーツ

- ·Campaスーパーレコード12S
- ・ハンドルバー/シートポスト: Passoni original
- ・ホイル: Cadexの新作(超軽量!!!)
- ・サドル: Passoni original Selle Italia
- · 6.9kg









カテゴリー4

ジャパン

- ・大会受付番号535
- · EVEREST 1969年

日本全国のフレームビルダーの方から、神 と呼ばれている梶原利夫氏の代表的な作品 だ。当時、ヨーロッパの自転車が、まだ遥 か先にあった中で、それらを徹底的に分析 し、凌駕するフレームを作成された。

美しいラグワークは、目を見張るものがあり、また、素晴らしい強度のフレームに仕上がっている。

このフレームの、作成過程のレポートは、69年10月号のニューサイクリング誌に掲載されている。難解だが、実に素晴らしい論文だ。この理論を確立し、このフレームを作成されたのが、氏が26歳の時とは、驚くばかり。

> 梶原氏は、ツールドフランスのコガミヤタチームをはじめ、原則、競技者にしか供給しなかったので、現存するフレームは非常に少ないと思われる。













- ・大会受付番号:103
- ・砂田弓弦氏が選手時代(1985年頃)に試作された24インチのロード

砂田氏によると700cと比べ転がり抵抗が小さいという理由でテストしたとの事。700cとの外周差を補うため、アウター60t、トップ12tというギアを設定したり、変速時の姿勢変化を抑えるためにバーエンドコントロールを採用したりしたが、結果は慣性モーメントが小さい事がネックとなり、実戦投入される事はなかったそう。

部品はサンツアーシュパーブプロを中心に組み付けられている。

当時、アラヤでテストライダーをされていた成田加津利さんのお店で2019年に購入。ペダルレスだったので、手持ちのシュパーブのペダルをつけてある。

ペダル以外は全てオリジナル (消耗品は交換済み)。









- ・大会受付番号:541
- · ALPS Quick Ace(東叡)
- ・1975年ごろ

ノンレストアのオリジナルになります。 ハイテンフレームにプレスエンドの最初期型。

東叡製。

輪行ベッド(アルプスオリジナル) 杉野のコッタードクランク、さ新家のタコ穴 リム、サンデンの大型ライトなど70年代初頭 のパーツで組まれています。

特記すべきはオリジナルの大型のフロント バッグとオリジナルの輪行バッグ。フレーム カバーに固定用のバンドまで揃っています。

アルプスのランドナーがこの様な状態で残っているのは、かなり稀なケースだと思います。

「ツーリングはアルプスの世界です」まさに その通り。現在でもツーリングに使用してま す。











- ・大会受付番号:559
- ・ボネノーワール、ALIZE F
- ・2011年ごろ

購入は、2017年京王閣競輪場サイクルフ リーマーケットでフレームのみ購入。ホイー ル後輪・前輪リムは新規購入で他の部品は、 リユースでのリノベーション小径自転車です。 クランクは、FAS4000モデルをフレームに 合わせて自分塗装、マットガードはDIY制作、 ホームセンターで購入した塩化ビニル板に カッティングシート屋内用に屋外クリヤー シート、実用向けに2重張り、小径自転車な ので輪行移動も考えブレーキ、シフトワイ ヤーを分断が出来るリッチーのディレーラー ケーブルディスコネクターを使用、シフトワ イヤーは常に張った状態、コネクターはねじ 接合なのでバーシフトレバーを用いて1sを 損失しますが、可動量でワイヤーにたるみ持 たせ分離・接続作業ができる。













- ・大会受付番号:221
- ・Seams'セオサイクルオリジナルブランド
- ・1987年

ちょっぴりイタリアンテーストがあるおしゃれで煌びやかな自転車。

アピールポイントとしては遊び心でボルタカテナを装着しています。

こだわりとしてはカンパのCレコードのクランクをメッキフレームに合わせてボリッシュしてあります。

他の部品も鏡面仕上げをしてあります。フレームはコロンバスSL、SLXのミックス、セマスブランドですがビルターは松田志行です。











- ・大会受付番号:226
- ・アイズバイシクルグランボア(東叡社製フレーム)
- ・2013年

1960年代前後のフランスパーツを散りばめて、旅自転車(ランドナー)にまとめてみた。フレームは1960年超の歴史あるビルダーさんで、カイセイ8630R(ニッケルパナジュウム鋼)パイプをメインにフロントフォークは、オールド・レイノルズ531を先溜めで綺麗に曲げて頂いている。

◆フレームサイズ芯トップ575mmトップチュー ブ565mm◆グランボアフレームトーエイ製◆鍍金 /金線引/金線かがり/手書きロゴ◆グランボアヘッ ド小物ヴィンテージ◆BB・TA◆ルネエルス チェーンホィール◆グランボアグランフランジハブ QR◆グランボアリムパピヨンヴィンテージ◆グ ランボアタイヤシプレ700x30C◆ユーレRD ルックス◆ユーレFDクラブ◆ユーレWレバーアル ビー◆シマノチェーンHG91◆ATOMフリー ◆ リオターペダルMod. 65◆クリストフトーク リップ鉄◆パトロードトーストラップ白◆バコース トークリップカバー◆マハックブレーキアーチタイ ガー**◆**マハックブレーキレバー白ハーフパット ◆ レフォールマッドガードマルテル◆イデアルサドル 90◆カンパニョロシートピラー板ベース改◆グラ ンボアハンドルFM410◆グランボアステムエル ス型85mm◆センタープル用フロントパニア



